

中 曾 根 総 理 訪 中 の 概 要 (その 2)

(趙 紫 陽 総 理 と の 会 談)

6 1 年 1 1 月 9 日

外 務 省 中 国 課

9 日 午 前 9:00 から 10:00 ま で 人 民 大 会 堂 に お い て 行 わ れ た 中 曾 根 総 理 と 趙 紫 陽 総 理 と の 会 談 の 概 要 以 下 の と お り。

1. (冒 頭 部 分)

(会 談 冒 頭、 昨 年 秋 の 国 連 総 会 以 来 の 再 会 を 喜 び あ い、 中 曾 根 総 理 よ り、 訪 中 招 待 に 感 謝 す る と と も に、 休 日 に も 拘 ら ず 会 見 出 来 て う れ し い 旨 述 べ ら れ た。 こ れ に 対 し 趙 総 理 よ り、 双 方 が 関 心 を 有 す る 諸 問 題 に つ い て 意 見 交 換 で き る こ と は 得 難 い 機 会 で あ り、 短 い 時 間 で あ る が 相 互 理 解 に 役 立 ち、 兩 国 民 の 友 情 と 信 頼 に 役 立 つ と 思 う 旨 の 発 言 が あ っ た。)

(中 曾 根 総 理 発 言)

- (1) 日 中 兩 国 は、 政 治、 経 済 的 に 相 互 補 完 関 係 に あ り、 貿 易 の 拡 大 均 衡 と い う 方 向 で 協 力 が な さ れ て お り、 中 国 の 近 代 化 に 日 本 は、 今 後 と も 協 力 し て い く と い う 基 本 政 策 に 変 化 は な い。
- (2) 世 界 経 済 変 動 の 中 で、 東 京 サ ミ ッ ト に お い て 参 加 国 は 政 策 協 調、 構 造 改 善 に 同 意 し、 特 に 為 替 に つ い て も 協 調 す る こ と が 話 し 合 わ れ た。
- (3) 日 本 の 貿 易 黒 字、 米 国 の 貿 易 財 政 赤 字、 欧 州 の 経 済 不 況 ・ 失 業 等 を 考 え て み て も、 我 が 国 の 3 兆 6 千 億 の 内 需 拡 大 政 策 は 必 要 で あ り 現 在 国 会 で 話 し 合 っ て い る。

- (4) 日米間の為替相場については、宮沢・ベーカー声明で表明されているように、貿易に対処するために現在調整しているところだ。
- (5) 経済調整を進めるのは、我が国にとって大変である。特に石炭でその例として申し上げれば、（現在の生産量は）1600万トンであるが、これを1000万トン弱にするという方向で考えており、国内的に産地に対して非常に大きな問題を抱えているものである。
- (6) 日中貿易バランスのために我々としても努力している。最近中国で投資に関する規制が制定されたことは日本としても歓迎している。特に通産省、財界からも投資増大の方途について色々聞き調べてもきた。今後とも経済交流を進め協力していきたい。

（趙紫陽総理発言）

- (1) 両国関係は総じて良いという印象を持っており、協力の分野において比較的順調な発展を示している。中曽根総理就任以来の貢献には感謝している。新しい、より深い発展への可能性を含んでいる。日本の経済指導及び調整により中国からの輸入が拡大され、対中投資が増大することを望む。
- (2) 中国は開放政策を続け、4原則に基づく経済関係を拡大していきたい。新しい協力の方途を考えているが、資金協力、合弁企業、及び技術協力の面で更にお考え願いたい。

- (3) 貿易問題にあつては、中国の入超が一番緊要な問題であり、事態はなかなか改善されていない。日中間において1～7月間の入超は23億米ドルであり、本年全体で40億米ドルとなろう。今後とも、我々としても、品質改善、貿易体制の改善に努めるが、日本側でも色々な改善をして欲しい（例えば輸入検査等）。中国の輸出増大には潜在的な力があると思う。
- (4) 日中間の貿易協定に基づき色々なことに取り組んできているが、明年の閣僚会議において個別・具体的な問題について議論したい。
- (5) 輸出基地に関し円借款による合弁等の問題も考えて欲しい。合弁企業について、日本企業が一層中国へ投資を増大することを希望する。新しい規則を制定したが、日本企業がこれまで色々述べてきた意見を中心にこれらを採用した積りであり、これにより日本企業が積極的に取り組んでもらいたい。ここ2～3年は進展が見られたものの不十分である。円高によって日本企業が他の外国に投資するのに比べ、中国へは少ないようだ。政府からも奨励・促進するようして欲しい。

(これに対して、総理は、持ち帰って勉強したい。但し競争力と安定供給が大切だ。貿易収支の改善は日本政府としても目標とし努力したいが中国側もこれらの面での努力をして欲しいと述べられた。)

- (6) 90年までの第二次円借につづき、まだ時間はあるが、第三次円借について拡充・拡大を考えながら考えて欲しい。

(中曾根総理発言)

- (1) 第三次円借款については、持ち帰って研究したい。

- (2) 日本の企業進出については、円高により中国の方へ進出してくると思っていたが、結果としてはシンガポール、タイ、マレーシアの方へ多く進出している。こういうことについても中国は研究されたらいいと思う。聞くところによれば、中国では非常に税金が高く、人を雇うと所得税のほかに法人税のようなものもとられ、年間200万円の所得者は年間100万円以上の税をとられるというが、研究されたらいいと思う。
- (3) 日本人学校については色々努力していただいている。政府及び日本企業の方も一生懸命やるが、中国に今後とも協力して頂きたい。